

2013年(平成25年)3月13日

川崎市議会議長**大島 明様****リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会**

麻生の会 伊藤清美
宮前の会 山本太三雄
中原・高津の会 天野捷一

<連絡先>

川崎市高津区新作5-22-1-103
044(866)5785(天野)

リニア中央新幹線に関する説明会開催促進の陳情書

<陳情要旨>

リニア中央新幹線計画の川崎市内の建設計画について、市民は生活への影響や工事に関して大きな不安を持っています。建設主体のJR東海旅客鉄道株式会社は一昨年秋以降、川崎市民への説明会を開いていません。

つきましては、川崎市議会が市民の代表者として、市当局に対し、JR東海旅客鉄道株式会社が早急に市民への具体的な説明の機会を設け、現状での情報公開を行わせることを強く働きかけるよう求め、尽力されることを陳情します。

<理由>

1. ご承知のように、JR東海旅客鉄道株式会社(以下JR東海)が事業主体となって建設される予定のリニア中央新幹線は、川崎市内の中原区、高津区、宮前区、多摩区、麻生区の5区を計20キロにわたって、地下40メートルの大深度トンネルで通過するとされています。また5～10キロおきに直径30メートルの立坑が掘られます。工事中はトンネル工事の器機搬入口、残土の搬出口として、また完成時は乗客の避難口や換気塔として使用されます。JR東海は、現在3キロ幅で想定されている走行ルートや立坑の具体的な位置を明らかにしていません。私たち市民の「JR東海に沿線各区の市民に対し説明会を開かせよ」という再三の申し入れに対し、リニア担当の市まちづくり局は「JR東海に市民の要請を伝えているが、回答がない」と答えています。

2. リニア中央新幹線計画については、一昨年8月の公表後、JR東海により、走行ルートに関係する5区の住民に対する説明会が開かれました。その後、計画の概要書である「環境影響評価配慮書」に対する意見募集（パブリック・コメント）が行われました。市民から多くの意見が寄せられ、ほとんどが「500キロの速度で走って、事故の危険はないのか」、「電力はどう賄うのか」、「電磁波の影響が心配だ」、「少子高齢化の社会で採算が取れないのでは」、「立坑工事で騒音や振動や自然への影響があるのでは」など、疑問と不安の声でした。一昨年12月から昨年1月にかけて行われた、「環境影響評価方法書」に関する市の環境影響評価審議会でも、会長自ら「方法書は意見募集で寄せられた市民の声を反映していない」と指摘しました。さらに、アセスメント終了後の市長意見や知事意見では、「方法書は環境影響評価が及ぶ対象や地域が不確定であり、方法書の段階で審議すべき事項について、検討が十分できていない」として、「本事業における運行本数、電力供給、路線位置、立坑及び作業内容等の具体的計画等は、本来の方法書で明らかにすべき」とJR東海に対し、準備書を待たずに具体的な内容を明らかにするよう求めました（2012年1月25日付意見書）。
3. 私たち市民有志は、一昨年秋以降、JR東海からも市当局からも、市内のリニア建設について具体的な説明を受けていません。この間、2012年1月、5月、10月と3回にわたり、JR東海に説明会を開催させること、あるいは市独自に住民に現状を報告する機会を設けるよう市当局に要請してきました。結局、回答は「皆さんの要望はJR東海に伝える」ということだけで、私たちが要望する説明の機会は全く実現されませんでした。
4. 市当局は、市民の安全、安心な生活を最大限に尊重し、不安や疑問を訴える市民の切実な声に応えるべきです。東海道新幹線もそうですが、リニアも川崎には駅ができません。リニアが実現されると、東海道新幹線の「のぞみ」が新横浜に停車する本数は著しく減ります。リニア新幹線によって、川崎市はますます通過するだけの地域となるだけで、市民にとって有為なメリットはありません。市当局にはJR東海の言いなりにならず、市民に寄り添う立場に立って、きちんとリニア中央新幹線に関し、イニシアティブを発揮し、JR東海に対し説明会を開催するよう求める責務があると考えます。

以 上